



大隈 総裁 殿

法典調査會

致し

114
A 4664

新



114
A 4664



別紙之通り通知状各委員へ發送致し
置候條此段及具申候也

明治三十一年十二月四日

法典調査會



大隈總裁殿

内
閣

法典調査會
大隈總裁殿

11
A 4001



二日甲第一号乃至第三号議案ニ関スル
會議ハ出席者定数不滿ニ付延會相成
更ニ來ル七日(月曜日)午後三時ヨリ總會議
相開矣條必不御出席相成度若シ差支御出席
難相成時ハ本案ニ對スル御意見書面ヲ以テ御
申出可有之何等御申出無之時ハ本案御同
意ト看做決議可致此段及御通知奉也

明治三十一年十一月四日

法典調査會

委負殿

明治三十一年十一月四日
法典調査會
委員 佐野 俊 次郎 氏 宛
御座
法典調査會 謹啓

114
4664

大隈内閣總理大臣殿

光親展

敬言視總監西山志澄



リ 全国ノ同
疾 疾病苦
スル者ナ
ニアリテ
ンヤ人生
ニ於テ
スルコト
實ニ以點
治病ノ目
或ハ醫師
携帶ニ供



114
A 466



乙秘第四五四號

十月四日

賣藥營業者増税反對運動ニ付趣意書配布
府下ノ賣藥營業者組合ニ於テハ別紙ノ如キ非増税趣意書ヲ全國ノ同
配付ニ増税ニ反對シテ目的ヲ達セト目下運動中ナリ

賣藥非増税趣意書

呻吟スル不幸可憐ナル災厄者カ已ムヲ得サルニ使用スル者ナ
リ抑税法ノ原則ニ案スルニ苟モ文明ノ主義トスル良政府ニアリテ
ハ米麦ノ如キ人生必需ノ日用品ニ課税シタル者アラズ況ンヤ人生
中尤モ不幸ナル疾患者ノ服用スヘキ醫藥品ニ課税スル者ニ於テ
ヤ是我カ政府ノ醫師藥劑師ノ投劑スル藥品ニハ毫モ課税スルコト
ナク又醫藥ニ供スル酒精ニハ免稅ノ恩典アル所以ニシテ實ニ缺點
ニ於テハ深ク政府ノ所為ニ敬服スル所ナリ然レニ均シク治病ノ目
的ニ使用スル藥品ニシテ特醫藥ニ乏シキ寒村海隅ノ僻地或ハ醫師
ノ診察ヲ乞フノ資ナキ下流社會ノ貧病者其他舟車旅行ノ携帶ニ供

醫藥非増税趣意書

火野

醫藥非増税趣意書

シテ急變ノ際ニ必要品トシテ公衆ノ患苦ヲ救ヒツ、アル賣藥ニ
向テ却テ明治十五年以來課税シツ、アル。恰モ左手ニ、之ヲ撫フ
、右手ニ、之ヲ打カキ矛盾ノ所行ニシテ實ニ我々ノ解スル能ハサ
ル所ナリ想フニ印紙税ナル者、全ク間接税ニシテ之カ負擔スル究
竟購賣者即チ賣藥使用者ニ歸セサルヲ得サル者ナリ之ヲ換言スレ
バ崗巷ノ下流社会ニシテ醫師ヲ迎フルノ資ナキ貧病患者ニ向テ苛
税ヲ課スル者ナリ今ヤ大公至正ナル憲政政府ニシテ豈斯ル無慈
悲不公平ナル税法アリヤ然ラハ則チ此課税ヲ廢止セントスル事
体ニ獨リ賣藥業者ノ為メニスル私問題ニ非スシテ天下公衆ノ為メ
ニスル國家ノ大問題ナリトス是ヲ以テ我々賣藥營業者、嚮ニ賣藥
税金廢ラ唱道シ貴衆兩院ニ向テ請願スル者一再ニ止ラズ今聞ク所
ニ據レハ監獄ヲ改良シテ天地容ル、所ナキノ犯罪者トテ恩惠ヲ加
ヘント計画シツ、アル現内閣カ恤ムヘキ此賣藥ノ良民ニ向テ毫モ
顧慮スル所ナク却テ徒前ニ三倍スル苛酷ノ疾病税ヲ増徴セントス
ルニ至ラハ怪訝ノ極失望ノ至リニシテ實ニ其了解ニ苦シム所ナリ

抑モ現内閣ニ賣藥ヲ以テ如何ナル者ト為スヤ彼ノ不必要ナル餅菓
子ヨリモ輕シトスルヤ將タ奢侈品ナル酒烟草ノ如キ者ト同視スル
ヤ菓子、腸胃病ヲ醸スノ原アルニモ拘ラズ既ニ其税ヲ全廢セリ
酒税ハ稍重キニ似タレ其奢侈品ニシテ人身ニ害アルヲ免レス歐
米各國モ多クハ之ニ重税ヲ課セリ而シテ我賣藥ニ至テハ素ヨリ治
病ノ目的ニ出ル者ニシテ内務省モ又其有効無害ナルヲ公認シタル
民間必需ノ要品ナルハ彰明確著ナリトス然レニ之ニ三割ノ重税ヲ
課セントスルハ抑ニ何ノ點ヨリ之ヲお算ヒ来リタルヤ今試ニ賣藥
業者ノ事情ヲ記シカ蓋シ曰業者モ亦素ヨリ優劣高下一様ナル能
ハズト雖モ近時醫藥學術ノ進歩ニ伴ヒ賣藥ノ調製モ又隨テ改進シ
其有効確實ナルハ固ヨリ往時ノ丸散膏丹ト同日ノ論ニ非ラズ謹シ
テ内務省許可ノ定式ヲ遵奉シ精選ノ藥材ヲ用テ製造スル者ニシテ
其原料藥効共ニ醫師ノ投劑スル所ト毫厘ノ差違アルコト莫ク而シ
テ且ツ賣藥ニハ容器包紙能書其他ノ裝飾ヲ要シ蓋ニ受賣者ノ割引
及ヒ運送費等營業ノ雜費ヲ要スルハ決シテ醫師ノ診察料ト藥價ヲ

併收スル者ノ比ニ非ラズ然ルニ醫師ハ殆ト賣藥ニ三四倍スル藥價ヲ徵收シテ尚ホ足ラズトスル者ノ如シ俗諺ニ云ヘル藥九層倍ノ語ハ屢々吾人ノ口吻ヨリ發スル所ナレバ之レ只其ククト續ケル語路ヨリ来レル諧謔ノ言ニシテ昔時漢方醫ノ草根木皮ノ配劑ニ或ハ斯ノ如キ暴利ヲ貪リシモ亦未タ知ルベカラズ現今ノ賣藥ニ至テハ原料調劑共ニ學術上ヨリ精煉シ来ルモノニシテ寧ロ營利的事業ト曰ハンヨリモ救濟的ノ仁術ト視做スヘキ者ナレバ現在ノ課稅サハ之ヲ過當ナリトスル所ナリ奈何ンゾ三割ノ苛稅ヲ課スルノ理アラシヤ

前條說ク所ニ據シハ三割ノ稅ニ實ニ賣藥ノ禁止稅ト謂フモ決シテ過言ニ非ラズ是或ハ當路者ガ未ダ深ク賣藥其物ノ真相ヲ知ラズシテ誤ラ庸醫輩ノ誣言ヲ輕信シテ遂ニ此極ニ至リタルニ非ザルナキヲ得ンヤ曾テ屢ニ我が賣藥ヲ以テ利權ヲ蠶食スル者トナシ常ニ我カ同業者ヲ雙敵視スル庸醫アリ頃日現政府ガ歲出補充ノ改策ニ因却シテ稅源ノ探求ニ汲々タルヲ機トシ之ヲ利用シテ自己ノ私計ヲ

遂ゲンガ為ニ其伎倆ヲ逞フセリトノ說アル者真ニ近キニ似タリ苟クモ一タヒ我賣藥ノ真相ヲ諒解セバ賢明ナル内閣諸公ニシテ斯ル不當ノ稅法ヲ提出スルノ愚ヲ爲サバ凡レ可キナリ若シ果シテ政府案ノ如ク三割ヲ課稅スルニ至ラバ竟ニ其方教ヲ減シ又其發賣高ヲ減スルニ至ルニ著明ニシテ其如何程迄之ヲ減スルヤハ豫言スベカラスト雖モ必ラズ現時ノ半數ニ減スル者トセバ其徵稅ノ政府ニ獲得スル所ハ大凡九十萬圓以内ニシテ現時ノ收額ヨリ僅カニ拾萬圓程ノ增收ニ過キス而シテ又他ノ營業稅請賣稅等ニ於テモ從來ニ比シテ必ラズ大ニ減少スルノ惡結果ヲ得ルニ過キザルベシ又苛稅ノ結果ハ勢力藥品ヲ粗悪ナラシムルコトヲ誘導スルニ至リ公衆ノ衛生ニ必然ノ大害ヲ及ボシ又稅則ニ背戾スルモノモ隨テ多ク生じ愈々錯雜煩擾ヲ加ヘ上下共ニ之ヲ遵由スルニ苦ムルニナラズ其得失殆ト相償ヒ難キニ至ルヤ秦鏡ヲ懸ケテ妖魔ヲ照スカルカ

又賣藥營業者及賣藥請賣者就中賣藥行商者ノ如キハ往々其業ヲ失

ヲテ道路ニ流浪スル者ヲ生シ其慘狀ヤ殆ニト今ヨリ見ルカセク突
ニ國家ノ生民ヲ安處セシムルノ良策ニハアラザルナリ
賣藥ニ社會ノ必要ト即チ公衆ノ衛生ニ於テ現時ノ民度ニ於テ旧來
ノ習慣ニ於テ賣藥其物ノ目的及効驗ニ於テ絶體的禁止スベキ者ニ
アラザルナリ既ニ禁止スヘカアラザル以上ハ毫モ課税スベキ性質ノ
者ニアラス況ニヤ苛重ナル増税ニ於テオヤ
賢明ナル當路者ハ速ニ之シガ課税全廢ヲ新行ニ進ニテ慶幸ヲ告工
幾多ノ薄幸者ニ惠賜セヨ又天下ノ公衆諸民ハ吾々ノ救恤軍ニ聲援
シテ以上ノ目的四達セシメヨ

明治三十一年九月

東京賣藥業者

114
A 4664

大隈總理大臣官邸

大親展

榮花紙監西山春浩

日本橋町厚生館止宿ヲ取押(目下水上警署署)於テ取調



114
A 466



甲戌第一一七號

本邦人ト外人ト争鬪肩傷ノ件

昨日隅田川河津煙火見物トシテ當時横濱港投錨ノ英國
 軍艦ナリセセス號乗込ノ海軍士官ホコツク廿七年
 シンゴアー十八年通辨磯野包吉外五六名ノ者同船シ全
 所ニ来リ居タルニ本邦人乗込ノ遊船船客中英語ヲ以テ前記
 外人ニ對シ馬鹿ト言ヒタルヨリ外人モ又言語ヲ替ハシ双
 方酔興ニ乗シタルコト、テ本邦人ハビール瓶ニ宗瓶等ヲ
 外人ニ投擲シ夫シ力為人ホリコックハ眼下半月形ノ疵(外
 眼上ニ腫レ上リ紫色ヲ呈シ居ル)又ルニシンゴアーハ後頭部
 ニシテ形通辨磯野ハ前横額上ニ一字形ノ疵ヲ負タリ其間僅
 ニ二分間取締進查ノ漕ギ付ケタル際、既ニ本邦人乗込ノ
 船ハ見當ラサリシモ百方捜査ノ末本日其ノ加害者ト認メ
 ル北海生年保険会社支配人香西要三郎(岡山県人)ニテ京橋
 日本橋町厚生館止宿ヲ取押ハ目下水上警察署ニ於テ取調

大野隆行

保年保険会社

中ナリ但本件負傷者ハ昨夜日一所ニ於テ直々ニ山根警署醫
長外一名ノ醫師主任トナリ之ヲ治療シ後負傷者本人等ノ
希望ニ任セ進査ヲ付添ハ帝國ホテルニ之ヲ護送シ高前記
醫師水上警署署警部二名ホテルニ出張シ立合ノ上判検事
ノ臨検ヲ終ヘタリ

右及上申度也

明治三十五年八月七日

警視總監 西山志澄

大隈總理大臣殿

114
A 4664



警保局長小倉久

内務省
警保局長小倉久



子

三〇

内務省用

中五
誘相



414
A 4664



鑛毒事件ニ付通知
警界局長 憲兵司令官通知
保木間村出張安田憲兵大尉ノ報告

保木間村ニ田中ノ指導ニヨリ集合人民約五
百名アリ田中ハ之ニ説諭(如何ノ意味内使中)
ヲ加ヘシ為大同村弘毅院ニ集合セシメツアリ
尚ホ聞ク所ニヨシハ田中ハ之ニ説諭ヲ加ヘ相
当ノ總代人ヲ選定セシメ他ハ帰郷ヲ勸誘
セントスルモノノ如シ

鑛毒事件ニ付通知

保木間村出張安田憲兵大尉ノ報告



28

内務省用

114
A 4664

貴局局長小倉

子

第三七

敬言保局長小倉

内務省用

二彼人民等ハ三月乃至四月ノ食料ヲ準備セシ

早朝 昨夜 弘毅 子



114
A 4664



鑛毒事件通知
憲兵司令官通知
保木村出張守田憲兵大尉報告

出發ノ際却訓示ノ主意ニ対シ田中正造ヲ弘毅
院ニ訪問シ被害民ニ対スル今後ノ意見ヲ聞
クニ彼心善ク之ニ答ル要ニ曰ク
一 小生モ裝束動不穩ナルニツキ説諭ノ為メ昨夜
保喜島村ニ到着シ尙草加方向ニ向ハシト
セシモ車夫ノ疲勞ノ為メ果サス然ルニ早朝
鏡々人民ノ來進ニアヒンヲ以テ一先此寺ニ
集合セシメタル次第ナリ
二 彼人民等ハ三月乃至四日ノ食料ヲ準備セシ

鑛毒事件通知

レ

内務省用

毛 最早喰尽し進退ニ窮スル模様ニ付何
トカ都合ヲ付ケタキ考ナリ若し其俟入京ス
等ノ事アラレカ直ニ被害民ノ乞食ヲ帝都
ニ見ルノ慘景ヲ呈スルナラシ誠ニ心配ノ至リニ
存候

三 成否ハ計ラサシモ之レヨリ各一同ニ對シ懇心々
説諭ヲ試ニ帰郷ヲ勧誘スル考ニテ一應瘡
説シタキ考ナリ然ルニ憲兵整言察官ノ
方モ御同席差出ナシト談ニテレリ
廿八日前十一時保喜昌村弘毅院ニテ

安田大尉

414
A 4664



警保局長

憲兵司令官通知
九月廿八日 栃水縣佐野町在所発

安蘇郡人民約二百雲龍寺へ集り
上京スルト今朝極々ナリ今集令中



大隈内閣總理大臣殿

大親展

警視總監西山志澄

Vertical handwritten notes on the left side of the envelope flap.



Horizontal handwritten notes at the bottom of the envelope flap.

警員盤詰西山志登

大野

大野区警員盤詰西山志登

中野第一四五號



契

銅山鑛毒事件ニ付請願ノ為メ多衆ノ農民上京スル警報
ハルヲ以テ直ニ警部以下總員ヲ召集シ干任板橋ノ西咽
喉地ニ勿論其他要所ト認ムルキ方面ニ多數ノ警部巡査ヲ派遣
シ入京セントスルモノト對シテハ之ヲ遮ギリ多衆集合シテ以テ哀
願等ノ導キ出ワルノ不理ナルヲ懇篤ニ説諭シ歸村セシムル様ニ
スルニ望ムル警部我充分相加之方アリタル事其都度電話ヲ以テ
法報致電形如ク昨廿七日午後六時以後本日正午迄ニ上野停
車場ニ下車シタル者五村四名利根川通ニ津和通運九ニ京込
西國津和者五村四名入京者有之是等ニ對シテ其
若十九名ニテ總計百廿七名ノ入京者有之是等ニ對シテ其
都度一ト不理止不穩當ナルヲ以テ一村一名乃至数名ノ惣代
或ハ委員ヲ選ヒ哀願スル事トシ其他直ニ折返シ歸村スルキ
旨充分説諭ヲ加ヘ肯セサルモノ宿舎ニ就キ所轄警察署長
或ハ警部ニ於テ懇篤ニ説諭シタル事入京者中ノ警部説

請ニ服レ御代ヲ選ビテ返ルスニトシ其代ハ直ニ歸村シタルモ有
之在ニ京者ノ多クハ言ヒテ其地極人信信極底ニ設キ
シアル釘毒事務所ニ其地少敷者ノ言ハ津子オ、猿舎ニ投シ
舟ニモアルモ其地モ不穩ノ弊ヲ勤メ思フス然レ本ノ年ハ七月
頃子信信家多ク其内洞江村派出所出テ只今田中正
造外キ名口所ニ被害上京人民約ニ千余人ヲ引ルノ歸村方
説論中其上ノ急報アリ其以テ直ニ其狀況ヲ視ルモ
路上ニ踏座スルアリ臥スルアリ茶店ニ憩フアリ其數約八百余
人而シテ田中正造ハ日村實親院ヲ借リ受テ日村長坂田正助
ニ依頼シ振飯ヲ用意セシメ一面京願上京者中より重立タル者
十數名ヲ集メ論スニ歸村ノ當否タルヲ以テ其日人オより多
名ニ説カニトシテ其重立タル者去リ少時ニテ再び來リ日
我トノ力餘ク多ク思フ鎮押ス能ハス故ニ一日ニ説論アラニトシテ
望ムト云フ於テ田中正造ハ一日ヲ日村氷川神社境内ニ呼集ラレ
農圃ニ蝟集シタルモノ約二千余人ト認ム田中正造ハ多ク思フ者

對シ上京ノ不可ナクテ懇口ニ演説セシニ遂ニ其説論ニ服シ御代
五ノ名ヲ選シ他ニ先歸村スルコトニ決シテ後ニ付頭アリテ漸
ニ歸途ニ上リテ其トモ高島一ヲ薦リ多ク充分其戒中ニ有之
其旨願末及申報也

明治三十一年九月廿八日

親言視德監西山志澄

大隈内閣總理大臣 殿

直ニ田中正造ハ其務共其善務ニ大限ニ被害地ヲ巡視
セラシメトシテ請願スル者身世祝ノ節ハ町寧ニ其由スル者
一日ノモノニ注意シ百方歸村ノコトニ飭メテ其殿副申也

114
A 4664

乙松才八〇第

東京市神田区直長神保町五番地
安居清次郎方

一月十二日

三浦 亀吉



同市中込區聚土前所高番地吉田徳太郎方
寄尚鳥取縣士族雜業

洞 鈴吉

同市深川區富岡門前仲町四番地平民高誠業

武部 申策

一月十三日

明治四十二年一月生

右ハ豫示令第一生才三子ハ一談当スル所為アルニ各既業
日ヲ以テ同令才二生才二子才三子ハ令令ヲ執行候業口股及
内申候也

明治三十三年一月十六日

收 視惣監山田為暄

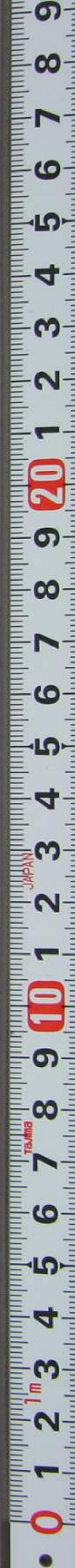
大隈外務大臣殿

114
46C4

大隈外務大臣殿

光親展

敬言親總監山田為直



114
A 4604



五三四路

東京市京橋區新富町三丁目七番地
平民市古長男新太郎訪業

石塚昇太郎

石塚昇太郎

石塚 庄八

昭和九年九月八日

以三昨日廿四日頭書

右之者豫我令第一條第三項一
之命令ヲ執行長各林殿及力申
昭和九年十月十五日

石塚 庄八
山田 爲 題

大隈外相大臣殿

大隈外相大臣殿

光臨

石塚昇太郎

114
A 4664

5



秘

暗号状

巻の
係の長
七
夕
土
の
う
は
三
何
二
十
か
巻
標
本
終
巻
の
長

ロ
ニ
ヤ
号
機
関
士
イ
リ
エ
ー
ト
ウ
イ
ン
ク
ヤ
ク
ザ
イ
テ
ウ
メ
ニ
シ
ヨ
ア
ガ
キ
ノ
再
臨
國
海
軍
大
尉
バ
チ
ン
フ
コ
フ
ノ
免
状
便
り
更
ケ
昨
日
日
光
ニ
来
り
今
東
京
エ
向
ケ
立
ッ
番
出
納
ア
ト



二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三

四四四四四四四四四四

五五五五五五五五五五

六六六六六六六六六六

七七八七八七八七八七

114
A

親

親展

大隈外務大臣閣下

外務省用

緘

三橋信方



蘭ランのノ花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

花ハナはハ白シロくシくク花ハナはハ白シロくシくク

手取はあかきなり

世縁好ししに

合社成るに

し集りて之を

上六痛定なり

正情用成り

長久の世に

了成るに

掛松方古方

就て聖法を

百悔集し

身... 廿... 八...

了... 子...

上... 方... 方... 一... 方... 有

就... 望... 清... 定... 悟... 来

一... 白... 海... 岸... 一... 子... 北... 相... 端

一... 身... 家... 姓... 子... 家... 好... 取... 取

中... 一... 身... 其... 其

一... 身... 十... 身... 身... 身...

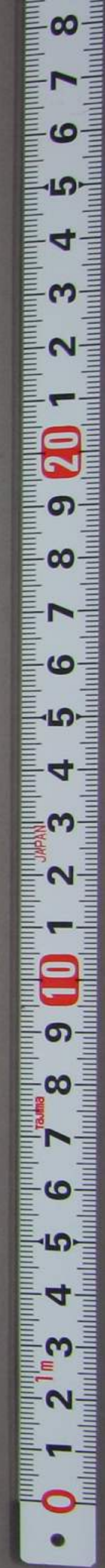
大... 國... 保... 家... 心

Handwritten text in cursive script (sōsho) on the left page of the document. The characters are fluid and connected, typical of personal correspondence or official orders from the Edo period.

大田原所存之圖
永田所官部
Handwritten text in cursive script on the right page, including the recipient's name and the sender's name.



海軍大臣侯爵西郷從道
Printed vertical text on the right page, identifying the recipient as the naval minister and nobleman Saigō Takamotomichi.



此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也

此行亦宜有故能也